

第2回おだわら市民活動サポートセンター指定候補者選定委員会 会議録

1 日 時：平成25年10月7日（月） 午後7時10分～午後8時40分

2 場 所：小田原市役所 301会議室（議題1・3）・大会議室（議題2）

3 出席者：奥津委員長、前田委員、神馬委員、山脇委員、山崎委員

事務局：石井課長、小川副課長、桂主査、小澤主任、木村主事

4 会議内容

■ 議題1 審査の方法について（非公開）

■ 議題2 指定候補者の選定に係る公開プレゼンテーション

（事務局による主旨説明の後、申請団体がプレゼンテーションを実施）

事務局：それではここで質疑に入る。質問のある審査員は挙手をお願いします。

委員：指定管理者申請書中、利用者等の要望の把握及び実現策についてお聞きする。プレゼンテーションでもあったように、事業ごとにアンケートを実施しているということだが、どのような内容の要望が多いのか。

申請団体：何かをしてほしいという要望はほとんどない。事業を開催したことへのお礼など、良いことを書いてくださっている。また、サポートセンターに目安箱を設置しているが、ここ数年は何も入っていない。

委員：申請書の収支予算書にある人件費についてお聞きする。記載されている内訳の中の交通費は、勤務する方の毎日の交通費と、事業や研修時の交通費と考えて良いのか。

申請団体：自宅からサポートセンターまでの通勤費である。

委員：実費負担ということによろしいか。

申請団体：そうである。

委員：勤務のシフトに関してお聞きする。夜間は1名体制とのことだが、安全性の確保について、今まで問題が起きたことはあるか。

申請団体：精神疾患をお持ちのような方がいらしたことはある。対応方法などを定例会で話し合った。何かあった時は職員同士で考えるようにしている。

また、以前は市民会館の事務室とサポートセンターとで防犯ブザーをつなげていたが、故障してしまい、修理には高額な費用がかかるようなので、今は噴霧器の設置で対応している。

委員：続けてお聞きする。現在取り組まれている、自治会と市民活動団体の連携事業によって、両者が一緒に何かを行ったという実績はあるか。

申請団体：自治会の方々が市民活動への理解を深めており、市民活動団体への数件のオファーをいただいている。私たちから自治会と団体へ連絡をとり、調整を進めているところである。また、7月30日に開催した両者の交流会でも、自治会から具体的な要望をいただいたので調整していきたい。

委員：私から二点お聞きする。一点目は、県内の他のサポートセンターとはどのように連携を図っているのか。二点目は、申請書の収支予算書に関して、サポートセンターは新聞をとっていたと認識しているが、平成26年度はもう行わない予定なのか。

申請団体：新聞購読は予算の関係で削った。一点目のご質問については、私が、かながわ県民サポートセンターのNPOからの相談を受ける、ソーシャルコーディネーターを務めているので、そこで県内外の市民活動関連の情報を得ている。さらに、センター長同士のつながりも活かし、良いものは小田原にもどんどん取り入れるようにしている。

委員：市民活動の推進に向け、これまでサポートセンターの運営を行ってきた中で、見えてきた課題を挙げていただきたい。

申請団体：まず、市民活動団体の活動が活発になってきており、会議室の広さなど、現在の機能に限界がきていることである。また、多くの事業に取り組んでいる中、人手不足の面がある。新しい人材を入れたいが、予算的にかなり厳しいのが現実であり、少ない人数で、それぞれが善意の気持ちを持ち、フル回転で事業にあたっている。この現状も課題と考えている。

委員長：中高生に向けた、ボランティア活動への参加促進についてお聞きする。これまでの成果として感じられることは何かあるか。

申請団体：夏休みボランティア体験学習終了後のアンケートによると、例えば子育て支援の団体でボランティアをした参加者は、「赤ちゃんの温もりを感じられた」、「将来保育士になりたい」など、それぞれ何かを感じてくれた。

また、高校生ボランティアグループ「パレット」にはこれまで、就職活動をしながら参加する学生もおり、「パレット」での経験があったからこそ就職ができた嬉しそうに話してくれたこともあった。

夏休みボランティア体験学習については、学校によって参加者数にばらつきがある。ボランティア活動に熱心な学校は参加者が多い。学校として生徒たちに少しでも参加を促していただけるとありがたい。

事務局：それでは、質問も尽きたようなので、これで公開プレゼンテーションを終了する。選定の結果は後日郵送する。

■ 議題3 指定候補者の選定について（非公開）

■ 閉会